

女子短大生の家族関係 — 祖父母・孫関係 — (第2報)
上野学園大短大 ○遠山千代子
桜美林短大 広橋比刀美

【目的】女子短大生の祖父母・孫関係に対する実態認識度および意識は、既報においては数量的分析結果を中心にとりあげた。本報では、さらに内容の質的分析に重点を置いて結果を詳細に検討し、理想的な祖父母・孫関係の要素や条件をも考察する。

【方法】女子短大生（東京都・埼玉県）を対象として、1991年6月中～下旬に自記式質問紙法による調査を実施した。有効数は293票である。

【結果】

- ①約50%を占める「死亡祖父母」の思い出や印象を聞いたところ、祖父母の死亡時期によって思い出や印象の有無の割合は異なり、その内容については「物にまつわるもの」よりも「精神的なもの」と「行為や技術的なもの」の方が多く見られた。
- ②健在祖父母に対する意識は、幼い頃の「世話」・現在の「気持ち」・将来の「介護」に関連が見られるが、個々の内容や理由は「祖父・祖母」「同居・別居」「父方・母方」別にとらえると多様である。
- ③多数例（気持ち：好き，介護：思う）と少数例（気持ち：嫌い，介護：思わない）から各々の理由をあげたところ、「祖父母の人柄・性格」的な要素が大きく影響していることが明確になった。すなわち、孫から見て「優しい、話していて楽しい、尊敬できる、父母と仲がいい」祖父母が望ましい。なお、儀礼的な交流や金品の授受などの影響は少ない。